

釜ヶ崎解放 7

全国日雇労働組合協議会
釜ヶ崎支部 釜ヶ崎日雇労働組合
電話 06-632-4173

手抜き工事による、4、21宝塚市2名生きつめ事故

昨日 工事再開の強行に 弾劾斗争を展開 / 宝塚市、工事現場からトンコ、市庁舎に制服ポリを導入!

ア、(休) 手抜き工事現場に居直った
工事再開弾劾、決起集会
西成市民館

仲間たち、手抜き工事による、宝塚市での2名の労働者の生きつめ竹炭事故死に居直ったまま、事故現場の工事再開を強行した宝塚市に対して、昨日(21)弾劾斗争に決起した。

宝塚市当局は、わしらの決起をホリの連絡で知り、事故現場にトンコボなど重機を置いたまま、市橋組・徳山組を帰らせ、自らもトンコした。わしらはすぐさま、市庁舎に転戦し、座り込み、桶屋、子母で、2時間半にわたる弾劾斗争を闘いぬいた。市当局は例のごとく総務部長の清水を先頭に、ビケをばらした。これは、七月三日、宝塚署による、4、21

事故の実況見聞と称したトンボの搬入、工事再開の強行と同じく、ホリ公王道の斗争を強行、手抜き工事清算をはかろうとするものなのだ。

再開された工事においては、市の監督が常時2名あり、しかも事故前では管をつめる部分を幅ノ、8mしかアスファルトをめぐって、いよいよ、再開後は道路全面のアスファルトをめぐって掘削し、矢板を入れ、ていた。つまり、事故前とはやり方がまったくちがうのだ。宝塚市は口先きでは居直りながらも、実態上は、事故責任をみとめざるをえなくなっているのだ。ホリ公の導入は、こうした手抜き工事の責任が明らかになるのをおそれ、斗争を圧殺することによって、事態をのりきろうとしていることの現れた。